

上野幌・青葉地域 **北側部会 ニュース**

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会はこれまで地域の4つの小学校を対象に検討してきました。平成28年9月からは北側部会（上野幌小学校・青葉小学校）と南側部会（上野幌西小学校・上野幌東小学校）に分かれて検討しています。このニュースについても部会ごとに発行します。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

**第5回部会について**

8月31日（木曜日）午後3時から、上野幌小学校で第5回部会を開催し、教育委員会へ提出する意見書（案）の内容及び今後の想定スケジュールについて、検討を行いました。

**報告事項****個別に寄せられた  
意見**

6月6日に開催した第4回部会以降、電話で1件、メールで4件、手紙で1件、合計6件のご意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- この地域で施設一体型の小中一貫校のモデル校を導入できないか。青葉地域の方は、小中一貫校ではなく、地域から小学校がなくなることにごだわりがあると思うので、青葉町の地域に小中一貫校を整備するのが一番円満な結果になると思う。（平成29年7月 電話）  
（事務局回答）

札幌市では、小中一貫校の導入可否も含めた小中一貫教育の在り方について現在検討中です。その検討結果を待つと統合までさらに時間を要します。そのため、学習指導要領が新しくなる平成32年度の開校を目指して統合を進めることに決まった経緯があります。

- 青葉中学校に近いというだけで、上野幌小学校の校舎を活用することに決めたのか。青葉小学校の児童や保護者が納得できるようしっかりと説明がほしい。（平成29年7月 メール）  
（事務局回答）

統合後の通学距離、校舎の築年数など様々な観点から活用する校舎について検討してきました。小中一貫校を目指すのであれば、統合後の小学校と中学校は隣接している方が、より一層連携しやすいというメリットがあることから、上野幌小学校の校舎を活用する方向性が決定しました。

- 通学距離が延びる一部地域の子どもの負担が過度にならないよう慎重な検討をお願いしたい。
- 新さっぽろ駅から通勤している親は、仕事を終えて上野幌小学校のミニ児童会館へ18時までに迎えに行くことは困難なので、青葉児童会館をぜひ存続してほしい。
- 学校は地域コミュニティの中核であり、災害時の避難場所として重要な機能を持っている。青葉地域に学校がなくなるのは不安である。（平成29年7月 メール）

(事務局回答)

札幌市では通学距離の目安を小学生で概ね2kmとしておりますが、通学安全に関しては今後も慎重に検討していくこととなります。児童会館や校舎の跡活用に関するご意見は関係部署に伝えるとともに、それぞれの部署とも連携を取りながら、検討を進めていきたいと考えております。

- 統合後の校歌は、現在だけでなく将来も通用する言葉遣いが重要になると思うので、専門家の先生に作詞・作曲をお願いしてほしい。
- 統合後の校名は、札幌市にある町名や校名を含まず、既存のフィクション作品等に登場する学校と完全同名にならないよう配慮してほしい。(平成29年7月 メール)

- 青葉児童会館には体育室や図書室があり、地域住民との交流が盛んである。規模や歴史を考へてもミニ児童会館で代替えできるものではないので、ぜひ残してほしい。(平成29年8月 メール)

(事務局回答)

青葉児童会館の取扱いについては、所管している子ども未来局子ども企画課を交えて今後検討していく予定ですので、いただいたご要望はお伝えします。

- 統合に伴い通学距離が長くなる青葉町の児童について、配慮が必要ではないか。通学距離が延びると通学安全に影響するため、しっかりと検討していただき、その内容と結果についてニュースに掲載してほしい。(平成29年8月 手紙)

## 学校、PTA、地域における取組について

上野幌小学校、青葉小学校と青葉中学校の3校における小中連携の取組について、報告がありました。また、両小学校のPTA、両地域における連携についても、併せて報告がありました。

### 両小学校と中学校

#### 上野幌小学校、青葉小学校、青葉中学校の3校での打合せ

- 今年度から少しずつ連携していくことを確認した。
- 交流を深めるための方策や小中連携に向けた今後3年間の見通し等について意見交換を行った。(来年度は交流、再来年度には連続した学びを取り入れることを確認)

#### 夏休み中の部活動体験

- 上野幌小学校と青葉小学校の体育館を、青葉中学校の生徒が部活動で使用した。
- その際、両小学校の児童が、中学校の部活動を体験し、子どもたち同士で交流を深めた。

#### 小中学校間での教員による授業見学

- 中学校の2学期が始まる前に、中学校の教員が小学校の授業を見学し、お互いに交流を深めた。
- 冬休みには、逆に小学校の先生が中学校の授業を見学し、教員同士の交流をさらに深める予定。

### P T A

- 今後に向けた話合いを進めるために上野幌小学校と青葉小学校のPTA同士がお互いの学校の状況について意見交換するなど、交流を深めている。
- 厚別区の他校のPTAの方たちとも意見交換をしながら、新しい学校の教育環境がより良いものになるように努めていきたい。

### 地 域

- これまでも、地域ごとに子どもが参加する行事を開催するなどして学校と連携をしているが、今後は、青葉町自治連合会と厚別南町内会連合会と一緒に様々な協力をしながら、新しい学校と、より一層の連携を深めていかなければならないと考えている。

## 委員からの意見 (意見書案)

前回部会での修正を反映した意見書案を基に協議を行い、各委員から主に以下のようなご意見がありました。

### ■小中一貫校について

- 我々の中で小中一貫教育や小中一貫校の制度について、まだ理解が進んでいない。メリットだけでなく、課題等も含めて理解する必要がある。
- 小中一貫教育をより一層定着させるため、施設分離型ではなく、施設一体型の小中一貫校を希望することとなったが、札幌市における小中一貫教育がはっきりした時点で、もう一度メリット、デメリットを考える機会を持つべきではないか。
- 小中一貫教育は既に国の施策としてあり、国が求めている学校教育の形は揺るぎないもの。小学校と中学校の連携や円滑な接続を図る上で、地域の方と学校のつながりはとても重要になってくるのではないか。
- 小中一貫教育に関する文部科学省の資料に目を通したところ、確かにメリット、デメリットはあるが、デメリットは少なくメリットが多い。全国的な流れは小中一貫教育なので、この地域で先駆的に取り入れたほうがいいのではないか。
- 「小中一貫校」に関して聞かれた際、我々みんなが同じように答えられるわけではないので、共有できるものを一つずつ増やしていかなければならないと思う。
- 案では「小中一貫校を導入する際には」と限定的な表現なのでその部分を削除し、私たちが目指している小中一貫教育制度等の内容を保護者や地域に対して丁寧な説明を行うことを追加してはどうか。

### ■通級指導教室及び 相談指導教室に関する 要望について

- 通級指導教室及び相談指導教室については、「安心して通うことができる」だけでなく、現在の教育水準を維持できるということも、ぜひ記載してほしい。

### ■児童の放課後の 居場所について

- 上野幌小学校ミニ児童会館と青葉児童会館を利用している子どもたちが困らないようにしてほしい。
- 新設校に通う子どもの放課後の居場所の確保についても、十分な配慮を求めるような記載を追加してほしい。

# 上野幌・青葉地域北側地区における学校規模適正化に関する意見書

## 1 上野幌・青葉地域北側地区の小学校の再編案

### (1) 再編に当たっての考え方

児童の教育環境の向上を図る観点から、上野幌小学校と青葉小学校を再編し、新たに「(仮称)上野幌・青葉地域北側地区小学校」(以下、「新設校」という。)を設置すること。

### (2) 再編の実施方法

- ① 小学校と中学校の連携を強化するため、新設校は、既存の上野幌小学校の施設を活用することが適当であること。
- ② 新設校の開校時期は、平成 32 年 4 月とすること。

## 2 通学区域案

新設校の通学区域は、上野幌小学校と青葉小学校の現在の通学区域を合わせたものとする。

## 3 新設校の名称

新設校の名称については、引き続き検討を行い、別途意見書を提出する。

## 4 小中一貫校の設置についての要望等

新設校の開校に当たっては、隣接する青葉中学校との連携強化に取り組むこと。

また、上野幌・青葉地域北側地区の子どもたちの一層の教育環境向上を図る観点から、小中一貫教育制度などの内容を保護者や地域等に対し丁寧な説明を行うとともに、新設校の小中一貫校化についても検討すること。その際、小中一貫校の形態は「施設一体型」を希望する。

## 5 通学安全に関する要望

通学距離が長くなる児童もいることから、学校、保護者、地域等は、これまで以上に連携を深め、通学安全に関する取組を充実させていくことが必要と考える。

教育委員会は、これらの取組に協力し、児童が安全に通学できるよう十分配慮すること。

## 6 通級指導教室及び相談指導教室に関する要望

現在、青葉小学校内に設置されている通級指導教室及び相談指導教室へ通っている児童生徒や保護者が、統合後においても安心して通うことができるよう十分に配慮するとともに、現在の教育環境が維持できるよう努めること。

## 7 その他の要望

- (1) 新設校の開校に向けては、児童や保護者、学校間の交流事業等を実施するなど、児童や保護者が安心して開校を迎えることができる環境を整えること。
- (2) 両校の児童が新たな気持ちで新設校に通学できるよう、必要な学校施設の整備等十分に配慮すること。
- (3) 新設校においては、両校の特色ある教育内容やその歴史等も踏まえながら、「魅力ある新しい学校づくり」を進めることができるよう十分配慮すること。
- (4) 青葉小学校の跡活用については別途検討を行うこととするが、地域の意見を十分に聞きながら、この地域の活性化に資する活用方法を検討すること。
- (5) 新設校に通学する児童にとって、放課後の居場所も充実した環境になるよう十分配慮すること。

## 意見書の手交式について

とりまとめた意見書は、部会代表である吉岡委員と土田委員から、札幌市教育委員会の長岡教育長へ提出されました。

### 手交式

日時：9月12日（火曜日）10時から

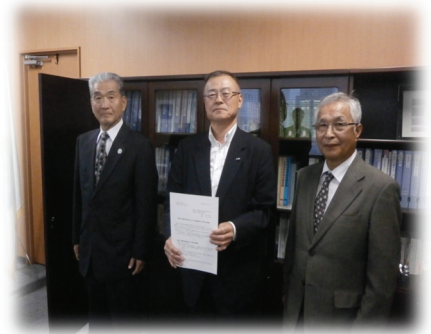
場所：教育委員会

#### 両部会代表から

- 両校を閉校し、新しい学校を作ろうという結論を出したのだから、未永く続く良い学校ができればと考えている。
- 小学校は地域の顔なので、これからは両地域が協力し合い、より良い教育環境を整備し、その新しい環境を守っていききたい。

#### 教育長から

様々な想いが交錯する中、大変な苦勞を経て、意見書を提出していただき、本当に感謝しています。委員の皆さまには、新設校の名称など引き続き検討をお願いいたします。



<手交式の様子>

吉岡部会代表（左）土田部会代表（右）  
長岡教育長（中央）



<手交後の懇談の様子>

## 委員からの意見

（今後のスケジュール案等）

今後の部会における検討事項について協議を行い、各委員から主に以下のようなご意見がありました。

### ■通学安全について

- 新設校になると通学路が新しくなるので、通学安全については、上野幌小学校と青葉小学校、両校の皆さんのご意見を聞く必要がある。
- 通学安全には大きく分けて「交通安全」と「防犯」があり、「交通安全」にも信号機などの施設の関係や安全指導の面があるので、予備知識を勉強した上で議論した方が、話が進むのではないかと。

### ■跡活用について

- 先に検討が進んでいる南側地区では、児童会館や上野幌西小学校の校舎等の跡活用について検討している。関係部署には地域からのいろいろな要望を聞いていただきたいし、北側地区においてはそれらの検討をもう少し前倒して議論できるように、準備してほしい。

## ■その他について

- 跡活用については、委員構成をある程度スリム化して検討を行った方が、よりよい議論ができるのではないかと。
- 意見書の中で小中一貫校を希望しているのだから、青葉中学校にも部会における話し合いに参加していただくことも必要ではないかと。
- 上野幌小学校と青葉小学校は学校図書館を地域開放している。統合に伴い両校のその取扱いがどうなるか、司書の間で話題になっている。
- スムーズに学校の統合を進めるために、体育振興会や交通安全母の会などの関係団体とも話し合っていく必要があるのではないかと。
- 小中一貫校を目指すことを踏まえると、校名や校章に関しては検討を急がない方がよいのではないかと。仮に校名案を公募とした場合、小中一貫校にふさわしいか慎重に考える必要があると思う。
- 小中一貫教育についてどのタイミングでどのような説明をしていただけるのか、大まかな目安でも構わないので示してほしい。

## 確認事項

第5回の部会では下記のことを確認しました。

- ・意見書を取りまとめた後も、「新しい学校づくり」のため引き続き検討を行う。
- ・次回部会では「通学安全」について検討を行う。

## 第6回の部会について

第6回部会は、10月下旬から11月頃の開催を予定しており、通学安全について協議を行います。

■ **ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください** ■

### ■ 上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局 ■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）  
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル  
T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837  
E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ 検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。  
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>